

環境に係る情報協議会 国営総合農地防災事業 幌延地区

1. 環境に対する考え方

(「幌延町田園環境整備マスタープラン」から)

《農村環境の現状と課題》

【現状】

幌延町は、広大なサロベツ原野を含む国立公園の玄関口になっている。原野には、多くの植物群落があり、また、川の一部には魚類などが確認されている。

【課題】

幌延町の農用地は、泥炭地という特殊土壌地帯が多く、また低地である。農作物の生産性を高めるためにも、河川、排水路整備は必要不可欠な整備であるが、湿原、河川に生息する貴重な資源を保全するうえでも、生態系に配慮した整備を行う必要がある。

《環境保全の基本的考え方》

- ・土地は限られた貴重な資源であるとの認識のもとに、自然生態系保全を図りつつ、計画的な土地の有効利用を図る。
- ・自然環境保護を図るため、自然と調和した農村景観の整備を進めるとともに、排水路、河川などの整備は、自然環境に配慮した改修に努める。
- ・自然環境に配慮した持続的な農業を推進していくため、家畜糞尿の適正な処理を進めるとともに、自然と共生した循環型農業を図り、環境と調和した農村集落の実現に努める。

2. 環境配慮計画

《基本方針》

本事業の実施にあたっては、生息・生育する動植物の保全に配慮し、自然環境への配慮を図る。

《取り組み内容》

【生態系への配慮】

- ① 排水路における水辺環境の保全
 - ・土水路を基本とし、護岸が必要となる区間は、魚類の生息環境に配慮した護岸工法を採用する。
 - ・周辺からの飛来種子による排水路法面の現況植生について早期回復を図る。
- ② 工事中の濁水流出防止
 - ・濁水が流出しないように濁水流出防止施設を設置する。

【景観への配慮】

- ③ 農村景観との調和
 - ・排水路法面に自然繊維シートを施工し、現況植生の早期回復を行い、農村景観との調和を図る。